

パブリックスペース・デザインコンセプト

- 1 上位計画等における
パブリックスペースの考え方
 - 1)九州大学新キャンパス・マスタープラン2001
 - 2)センター地区基本設計
 - 3)工学系地区基本設計

- 2 UIとの連携

- 3 パブリックスペース・デザインコンセプト
 - 1)パブリックスペースの整備目標
 - 2)空間別整備方針

- 4 構成要素検討の視点とコンセプト

- 1 上位計画等におけるパブリックスペース整備の考え方

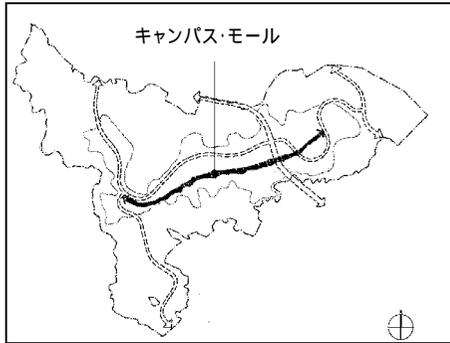
「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001(2001.03)」及び「工学系地区基本設計(2002.06)」「センター地区基本設計(2003.06)」においては、パブリック・スペース整備の考え方がそれぞれ検討・提案されている。
各計画に挙げられた「パブリックスペース整備に対する考え方」を、それぞれ一覧表として以下に示す。

1) 九州大学新キャンパス・マスタープラン 2001

対象空間	位置づけ	整備の方向			
		全体	ウェストゾーン	センターゾーン	イーストゾーン
キャンパス・モール	学際的教育を促進する軸	人間主体の快適で賑わいのある空間形成	屋内・屋外の空間が融合した活気のある歩行空間 楽しく歩けるキャンパス環境の形成 沿道部への理系図書館、学生交流施設、情報ラウンジ等の配置	東西のキャンパスをつなぐ軸の形成 全学教育施設、交流施設、生活支援サービス施設等の配置 活気に満ちた環境 沿道施設と一体となったエレベータ、エスカレータ等によるバリアフリー環境の形成	知的活動をつなぐ空間軸 快適なキャンパスライフを提供する環境形成
未来のポテンシャル軸	研究・教育活動のポテンシャル向上のために戦略的に活用する施設用地	研究教育施設と密接に関係する戦略的施設の将来建設用地	北側幹線道路に沿って用地を確保	幹線道路沿道に用地を確保	ゾーン北側に用地を確保
幹線道路	研究・教育活動を支援する動脈	インフラの幹線道路境界から10m以上の壁面後退による「緑地」整備			
キャンパス・コモン	憩いと安らぎをもたらす開放的なオープンスペース 新キャンパスの固有の象徴的空間 「一つの空間をキャンパス全体で共有する」	美しいランドスケープデザイン 「整備緑地」と「保全緑地」が融合したランドスケープ	連続的に開放的なランドスケープデザイン	(学園通線からのアプローチとして)大学エントランスの顔にふさわしいランドスケープ・デザイン	ベルベデーレ(眺めの良い場所)を中心とした開放的な空間 ランドマークとしての水崎城址の山の活用
グリーン・コリドー	周辺の保全緑地をつなぎ、緑・生態系をネットワークする 連続する施設用地の分節	場所毎の地形特性、周辺環境、施設計画、維持管理方法等の特色に配慮した適切なランドスケープデザイン			
(象徴的空間) 大学の顔 アライバル・ポイント	大学の顔 来訪者のアプローチと大学のアカデミックな空間が初めて出会う場所 アライバル・ポイント キャンパスモールから研究・教育施設へのアクセスや学外からの来訪者に対する「玄関」 キャンパス内の日常的な交通結節点	大学の顔 ランドスケープ・デザインと建築設計を一体に捉えた空間構成 象徴的なゲート性を持つ空間 アライバル・ポイント 学生・教職員が抱く誇りと愛着の拠り所となる個性ある空間づくり	アライバル・ポイント 幹線道路からキャンパスモールに入るゲート空間 キャンパスモールの空間を分節する象徴的空間	大学の顔 「タウン・オン・キャンパス」の中心的機能の集積 アカデミック・プラザ(西側)とコミュニティプラザ(東側)が一体となった「大学の顔」	大学の顔 東側市道からのアプローチに対する象徴的空間づくり アライバル・ポイント キャンパスモールと幹線道路の交差(接する)場所
ネイチャー・トレイル	思索にふけり、精神的うらおいと憩いを与える静寂な環境	生物多様性保全ゾーン、森林(保全緑地)、古代の遺跡、視点場等をつなぐネットワークの形成	石ヶ元古墳群、生物多様性保全ゾーン等へのアプローチ		金クソ古墳、水崎城址等へのアプローチ

- 1 上位計画等におけるパブリックスペース整備の考え方

「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」では、新キャンパスの特性を活かし、一体的な土地利用、機能的連結を図るため、骨格を形成する『主要素』として、以下の空間等を提案している。



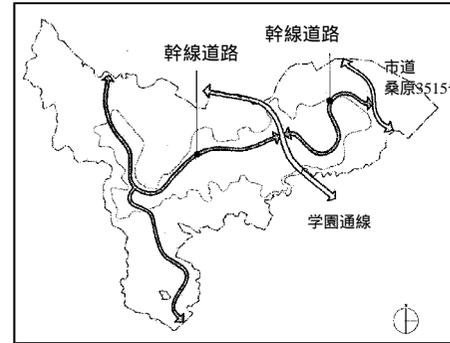
キャンパス・モール

学際的な研究・教育活動をつなぐ連続的な空間
学際的教育を促進する軸として機能させるとともに、人間主体の快適で賑わいのある空間



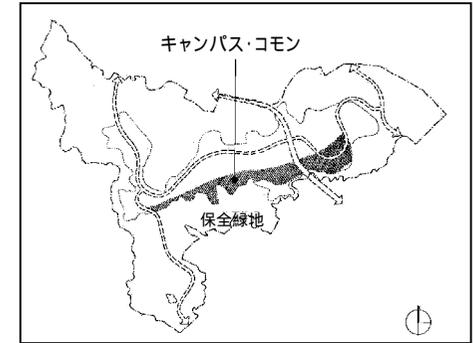
未来のポテンシャル軸

社会環境の変化に対応しつつ、世界的水準の研究・教育のポテンシャルを維持・向上し、戦略的に活用する未来の施設用地



幹線道路

研究・教育活動を支援する動脈
道路境界から10m以上壁面を後退し、沿道は原則緑地として整備



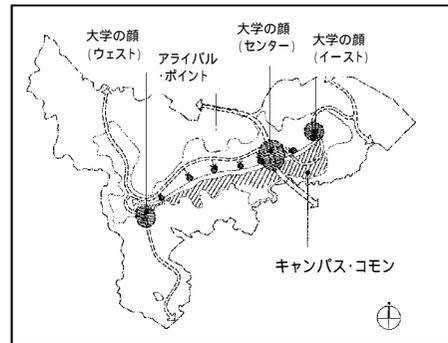
キャンパス・コモン

アカデミックゾーン南側のキャンパス・モールと保全緑地との間に設ける
憩いと安らぎをもたらす開放的なオープンスペース
日照環境や開放性の点で優れた環境を提供する空間
キャンパスの象徴的な空間としても位置づけられる



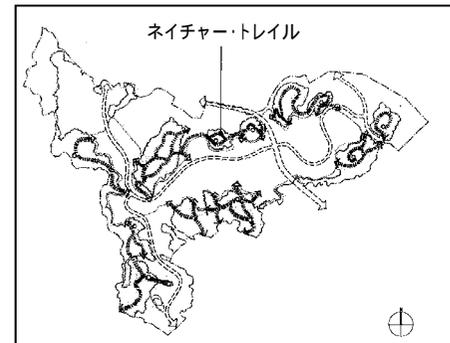
グリーン・コリドー

東西に長い敷地を分節するとともに、周辺の保全緑地をつなぎ、緑・生態系をネットワーク化する



象徴的空間

大学の顔: 象徴的なゲート性を持つ空間
ライバル・ポイント: キャンパス内の日常的な交通の結節点



ネイチャートレイル

保全緑地の環境資源を活かす散策路
保全緑地やキャンパス・コモンの豊かな自然環境を活用し、安らぎと潤いを与える豊かな生活環境を提供

- 1 上位計画等におけるパブリックスペース整備の考え方

2) センター地区基本設計

対象空間	整備の方向	デザインコード				
		景観形成	アクティビティ	空間演出・サイン	開かれた大学	自然環境との共生
キャンパス・モール	東西の軸を結ぶキャンパスの中心軸 雨に濡れずに歩行可能なピロティ空間の確保 両側施設の個性が表出する出会いと賑わいの空間	幅員 32m 建物高さD/H 1 ピロティなどによりキャンパス・コモンとの連続性確保	ピロティを連続させ雨天でも通行可能なルートを確保 標高30mのユニバーサルレベルを設定、段差を設けず東西間の移動ルートを確保	バナー等によるイベント時の対応について配慮 ウォールミュージアムなど、学生の知的好奇心を誘発する情報発信コーナーの設置	情報学習室 「見る」「見られる」関係を促す空間構成に配慮	グリーンコリドー
未来のポテンシャル軸	単なる空き地としてではなく、ランドスケープとあいまった完成型としての整備	10mセットバック ランドスケープによる施設誘導	将来的な建設予定地とそれ以外の部分を区分し、ランドスケープデザインにより誘導		戦略的リエゾン機能 民間資金等の活用施設 民間研究施設等	グリーンコリドー
幹線道路	交差点 ゲート性及び中心性の演出、多様な動線を処理するデザイン 西側構内 単調になりがちで印象が希薄になりやすいため、軸を強調する背の高い樹種を選定 東側構内 遠景からの眺望を妨げないような街路樹の選定	交差点 植栽やマウンド、カスケードなどで象徴性を演出 信号機、素材と色合い 西側構内 街路樹による象徴的な通り空間の演出、幅員 17m、未来型交通用地として10mセットバックを確保 東側構内 学園通線からの俯瞰に対し街路樹が壁とならないよう配慮、幅員 17m	交差点 多様な動線の結節点として、将来計画への柔軟な対応を可能とする 西側構内+東側構内 歩きやすく滑りにくい素材 遊歩道としても利用される楽しい雰囲気作り	交差点 大学の中心的ゲートとしての位置づけ 周辺建物と調和した形態・色調の信号機のデザイン 西側構内 ゾーンとしての特性を出しつつ全体として調和のとれた素材・色合い 東側構内 サイン計画	交差点 通りから10mずつのセットバックを確保 開放的で広がりのある交差点を演出	交差点 屋上・壁面緑化について検討 雨水浸透型側溝 西側構内 エコトネルや親自然型側溝など生態系をつなぐデザインによるグリーンコリドーの連続性の確保 東側構内 雨水浸透型側溝
キャンパス・コモン	学外との境界 遠景・中景からの「大学の玄関」としての顔づくり 敷地南側に広がる豊かな田園風景との調和 キャンパス・コモン 学生の憩いの場、活動の場として積極的に利用されるキャンパスの象徴的空間 周辺施設との一体的利用を可能とする	学外との境界 ランドマークとなるビューポイントの演出 樹木のスクリーンによるシーンの展開の演出 田園風景との調和 キャンパス・コモン ピロティなどによるキャンパス・モールとの連続性確保	学外との境界 沿道民間施設への外壁の色合い、アクセントカラー等の規制 キャンパス・コモン 学生が自由に憩い、語らうことができる場の整備	学外との境界 田園風景との調和 広域誘導サインの設置 リズムカルな照明装置の設置 イベント時のバナー設置対応の照明ガールの検討 キャンパス・コモン 屋外ステージとしての利用を検討 アートワーク設置の検討	学外との境界 ネイチャートレイルなど、地域住民への敷地内通路のルートを開放 キャンパス・コモン 地域住民にも開放できる広場として整備	学外との境界 周辺水田域からのフリンジグリーン の連続性に配慮 雨水浸透型側溝 キャンパス・コモン 都市的な並木のイメージ+グリーンコリドーとしての機能の確保
グリーン・コリドー			自然と人が共生する場(中央)	飛び石状の木立による連続性の表現(西)		生態回廊の機能を尊重(中央)
(象徴的空間) 大学の顔 ライバル・ポイント	アカデミック・プラザ 外部からアクセスする最初のライバルポイント 大学の玄関として位置づけられる象徴的空間 コミュニティ・プラザ 民間施設等を内包する活気のある空間 研究・教育の場に隣接する施設群との調和	アカデミック・プラザ 空間の象徴性に配慮 プラザ周辺諸施設の壁面の色合い・素材に統一感 コミュニティ・プラザ アイストップ D/H 1 施設の間節化、大学ホール前広場との連続性の演出	アカデミック・プラザ 人の密度の高い賑わいの広場としての整備 ピロティを連続させ雨天でも通行可能なルートを確保 コミュニティ・プラザ 周辺住民による朝市やバザールなどのイベント広場としての活用 ピロティを連続させ雨天でも通行可能なルートを確保	アカデミック・プラザ ライバルポイント 学内総合案内サイン アートワーク・沈黙性 ウォールミュージアム コミュニティ・プラザ インフォメーションボードの設置等による地域開放型施設の情報発信(公開講座等) ウォールミュージアム	アカデミック・プラザ 地域開放型総合インフォメーションの整備 情報学習室 コミュニティ・プラザ インフォメーションボードの設置等による地域開放型施設の情報発信(公開講座等)	アカデミック・プラザ ライフサイクルコストの低減 環境負荷の低減 ルーバー コミュニティ・プラザ ライフサイクルコストの低減 循環型水利用システム
ネイチャー・トレイル						

- 1 上位計画等におけるパブリックスペース整備の考え方

3) 工学系地区基本設計

対象空間	求められる機能	関連施設計画等	オープンスペース整備の考え方	植栽の考え方	屋外照明の考え方
キャンパス・モール	東西方向への「移動空間」 出会いや集いを誘発する「溜まり空間」 災害時の「避難空間」	自転車やバイクの通行を禁止 研究教育棟とキャンパス・コモン内施設との間隔を15m程度確保(D/Hを1以上) キャンパス・コモン内施設の屋上は緑化し、キャンパス・コモンと一体的な有効利用を可能とする 水崎城址への眺望の確保	ユニバーサル・デザインの実践：段差の解消、ベンチ、サイン等の設置 建築低層部(接地階)平面計画との整合：建築内部からの動線、視線に留意したデザイン ビル風・季節風への対応：植栽、高低差の利用、ウォール・ルの設置等による緩和	軸線を誘導する並木状の列植 空間分節の要素となるシンボル樹や樹木群	治安に配慮した明るさの確保 足下照明や樹木のライトアップ
未来のポテンシャル軸					駐車場 防犯上の必要性
幹線道路		幹線道路南側に自転車歩行車道を設置 並行して自転車専用レーンを設置		メインアプローチ空間としてふさわしい樹木の列植 沿道の実験棟群を隠すための常緑樹木群の配植	保全緑地への配慮：機能的に求められる最小限の照度の確保 照明による交通の誘導
キャンパス・コモン	「溜まり空間」「憩い空間」 スポーツ、ジョギング、散策等の「レクリエーション空間」 芝生に座っての屋外授業等の「集い空間」	緊急車両専用動線(W=4m) + 駐車場(サービス用)の設置 コモン内園路(W=2m)	地形の高低差を利用した「集い」「憩い」のスペースの整備 講義棟・生活利便サービス施設に併設したテラスやポケットパークの整備 理系図書館前：ウェストゾーンの象徴的空間、式典への対応、散策や憩いの誘発、緑の連続性 「溜まり空間」「憩い空間」となるポケットパークの配置	芝生と高木からなる空間 中央の所々にシンボルとなる樹木や大きな緑陰を作る樹木、周囲には常緑樹を配植 自然緑地との接点では、常緑樹を背景としたサクラなどによる季節感の演出 自然緑地内の裸地への植樹、竹林の樹種転換	
グリーン・コリドー	「移動空間」「アライバル空間」 細長い敷地空間の分節 周辺保全緑地をつなぎ、緑・生態系をネットワーク化	中央・東 アプローチ道路(W=7m、一方通行の時W=4m)及びバスベイの設置 通勤・通学時のバス乗降者や大型駐車場からの歩行者動線 車道横断箇所を最小限とする	西 小動物の移動など、生物多様性の保全に配慮、水場(ピオトープ)の設置 中央 工学系の中心的賑わい空間、建築に囲まれた象徴的空間の演出、植栽(密植)による南北軸の強調 東 歩行者交通量に対応したハードな舗装 + 緑の連続性の確保	西 南北の保全緑地を結ぶ照葉樹林の形成 中央 自然の中に都市が割り込んだような緑、ランダムな常落混交林 + 軸線を強調する樹木の列植 東 両側の実験棟群を隠す常緑樹、中央に季節感を漂わせる花木、都市を象徴する落葉樹	西 生態系への配慮 中央・東 キャンパスモールに準ずる
(象徴的空間) 大学の顔 アライバル・ポイント				アライバル・ポイント 象徴的空間として、建物のファサード、舗装、彫刻、噴水等とバランスのとれた配置	
ネイチャー・トレイル					キャンパスモールに準ずる

1) UIの目的と役割

UI(University Identification System)は、「社会に広く大学の魅力と力を伝え、大学に関わるものにとっては想像力を鼓舞し、誇らかに行動するための規範」であり、国立大学の統合や法人化の動きなどを踏まえ、大学の魅力を的確にアピールするための戦略の一つとして位置づけられる。

九州大学では、九州芸術工科大学との統合を契機に、2004年4月にUIを制定し、シンボルカラー及びサブカラー、ロゴマーク等を決定している。

学章



2) UIの展開に向けて

パブリックスペース整備計画においては、特に、その構成要素となる「サイン」「光環境」「アート」「ファニチャー」さらに「色彩」の検討において、UI戦略の展開を念頭に、オリジナリティの高い意匠の提案や統一イメージ形成のための手法の提案等を行うことにより、新しい「九大らしさ」の創出を目指す。

シンボルカラー(メインカラー)



DIC230
C39M100Y50K35
Nocs51-02
(10RP3/12)



DIC305
C30M100Y80K20
Nocs51-06
(10RP3/12)

サブカラー



DIC2482
M100Y90K20
Nocs44-07
(5R4/14)



DIC200
M70Y100K10
Nocs44-10
(10R5/15)



DIC207
M25Y100K15
Nocs51-18
(10YR7/12)



DIC325
M60Y100K40
Nocs51-02
(5YR5/8)



DIC171
C65Y100
Nocs42-25
(5GY6/10)



DIC338
C100Y100K25
Nocs51-28
(5G4/8)



DIC225
C100M75K30
Nocs51-42
(5PB2/8)

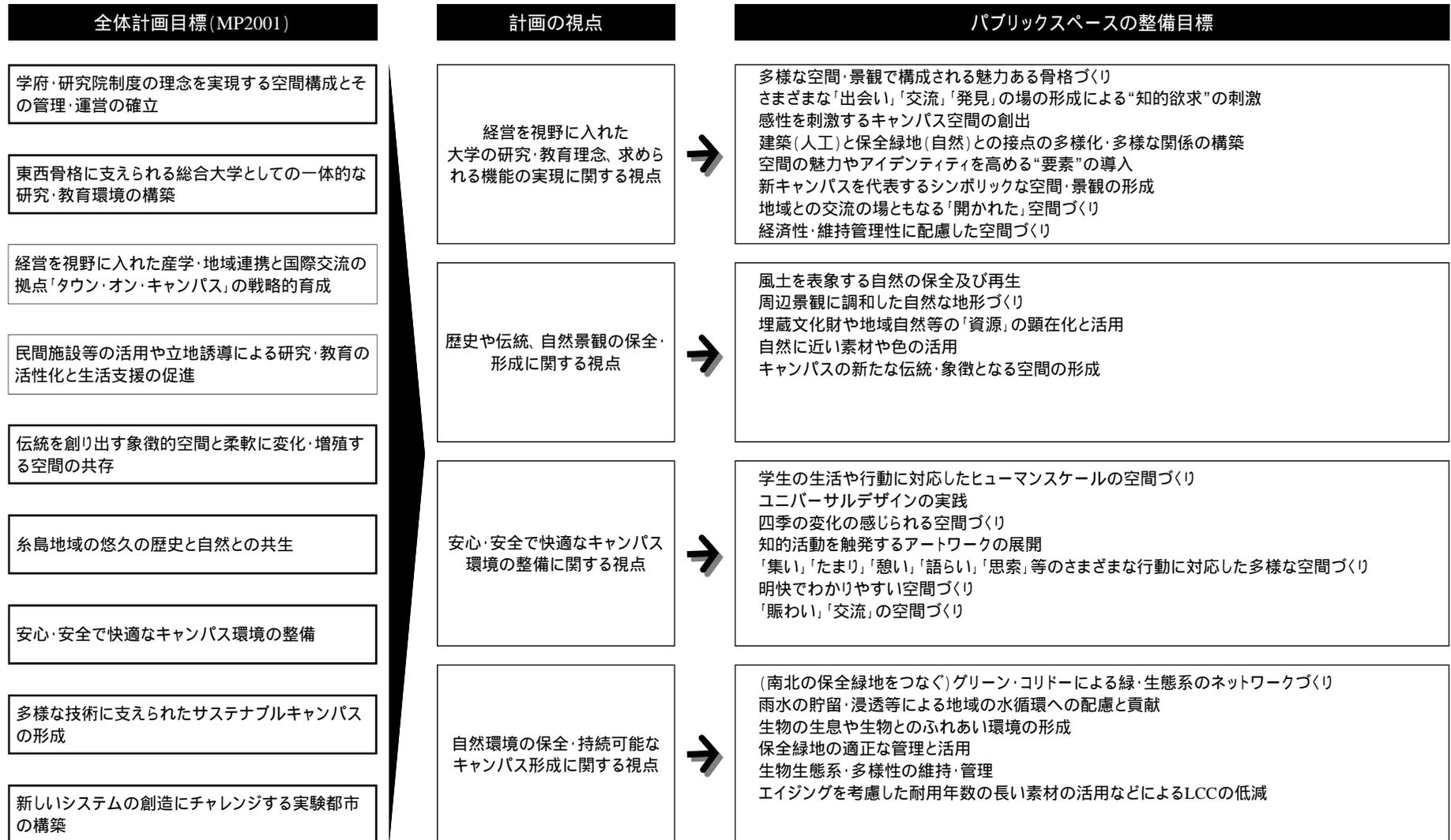


DIC2417
M55M55K5
Nocs44-44
(10PB5/6)

- 3 パブリックスペース・デザインコンセプト

1) パブリックスペースの整備目標

「新キャンパスマスタープラン2001」に示された“全体計画目標”に対応するパブリックスペースの“整備目標”は、下図のように整理される。



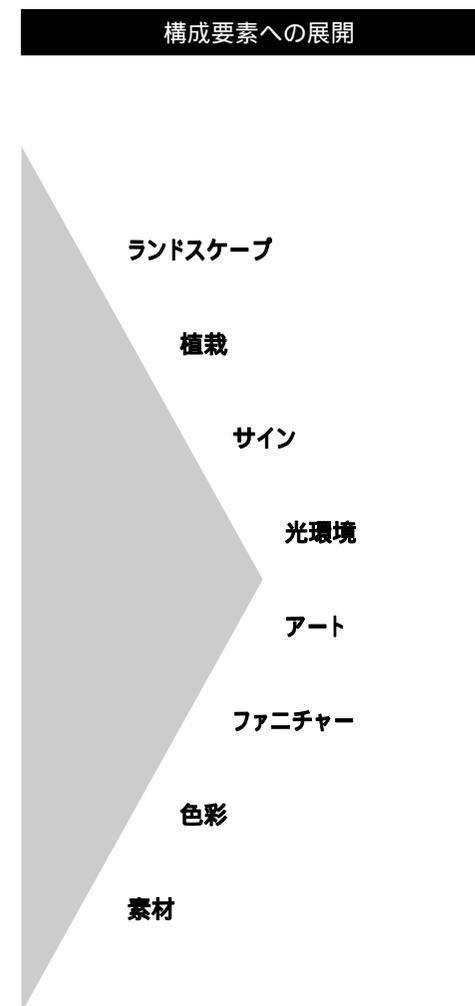
上図中 は、センター地区固有の目標を示す。

- 3 パブリックスペース・デザインコンセプト

2) 空間別整備方針

パブリックスペースの整備目標を踏まえ、各空間における整備方針を下図に示す。
デザインマニュアルでは、これらの方針を踏まえ、パブリックスペースを構成する構成要素毎に、その整備の方向を示す。

空間別整備方針	
キャンパス・モール	「出会い」「語らい」「憩い」の場として、賑わいのある“みち”空間を形成する。 リズム・秩序を持った「軸」と、周辺の「たまり空間」、視点場など、多様な空間や景観で構成された魅力ある空間を形成する。 「大学の顔」と一体となり、「九大祭」「イベント」等の利用に供する広場空間として整備する。
未来のポテンシャル軸	戦略的施設の将来建設用地として確保する。
幹線道路	地域景観に調和した自然な地形づくりを行うとともに、大らかな地形や景観を活かした快適な移行空間を創出する。 沿道緑地等を活用し、大型実験施設群の見え方を和らげる。
キャンパス・コモン	身近な自然とのふれあいや散策、軽い運動など、多様で“疎”な(低密度な)利用に対応したフレキシブルな空間として整備する。 建築(人工)と保全緑地(自然)の接点となる空間として、自然的地形や景観を基調とした開放的で安らぎの感じられる空間を形成する。
グリーン・コリドー	空間の分節と人の誘導に資する明快な「軸」を形成する。 「グリーンベルト」としてのボリュームを確保するとともに、生物多様性の保全に資する樹林から整形的な列植まで、空間の位置づけを踏まえた多様なタイプの樹林を形成する。
(象徴的空間) 大学の顔 アライバル・ポイント	来訪者に対し、インパクトが強く、かつ美しいランドスケープの創出により、キャンパスの新たな伝統・象徴となる空間を形成する。 「象徴的空間」にふさわしいシンボリックな修景・演出を施す空間とする。 「集い」「交流」の場にふさわしく開放性の高い明快な空間を形成する。
ネイチャー・トレイル	「保全緑地」を活用した観察、散策などの「静的」な利用に供する空間として整備する。 埋蔵文化財や地域自然等のネットワーク化により、「資源」の顕在化と活用を図る。



上図中 は、センター地区固有の方針を示す。

- 4 構成要素検討の視点とコンセプト

パブリックスペースを構成する各要素について、その検討の視点及びコンセプトを以下に示す。

パブリック・スペースの構成要素	検討の視点	コンセプト	参照
ランドスケープ	四季の変化や美しい景観形成などにより、魅力あるキャンパスの形成を目指す。 生活者のアクティビティを踏まえた明快でわかりやすい空間及び景観の形成を図り、安全や使いやすさの向上を目指す。	地域の風土・ランドスケープとの調和 自然との多様な接点の創出 大学生生活の「場」にふさわしい創造性を誘発する空間の創出	- 1
植栽		感性を刺激する多様な「緑」の導入 建築と調和した景観の形成 種の保存及び地域遺伝子の保護 安全性や管理面への配慮	- 2
サイン	オリジナリティの高い意匠の検討などにより、ランドスケープとの調和や空間の魅力づくり、UIの展開を目指す。 各要素の複合化により、景観形成やコスト管理、維持管理等におけるメリットの向上及び活用を目指す。	「情報拠点」への配置 「現在位置」のわかりやすさ 「通り名称」の活用 「照明」とサインの一体化整備 「変化」への対応	- 3
光環境		安全でわかりやすい夜間のキャンパス環境の形成 個性的で魅力ある新しいキャンパスのイメージの確立 周辺自然に対する光害への配慮	- 4
アート		アート“環境”の創出 開かれた大学にふさわしいアートワークの発揚 本学及び新キャンパスの理念の表象	- 5
ファニチャー		空間の容量やアクティビティに配慮したデザイン・形態 空間を構成する他の要素との機能の複合化 建築デザインとの整合	- 6
色彩		地域のランドスケープや環境、周囲の建築等との調和を目指す。 UI戦略を踏まえ、新キャンパスを特徴づけるとともに、統一感の形成を目指す。	飽きのこない色彩環境の形成 「九大らしい」色彩環境の形成 周辺景観を活かす色彩環境の形成 構成要素間の調和への配慮
素材	周辺景観や構成要素との調和 九大のイメージを集束させる 利用者への配慮 環境への配慮 維持管理への配慮	- 8	